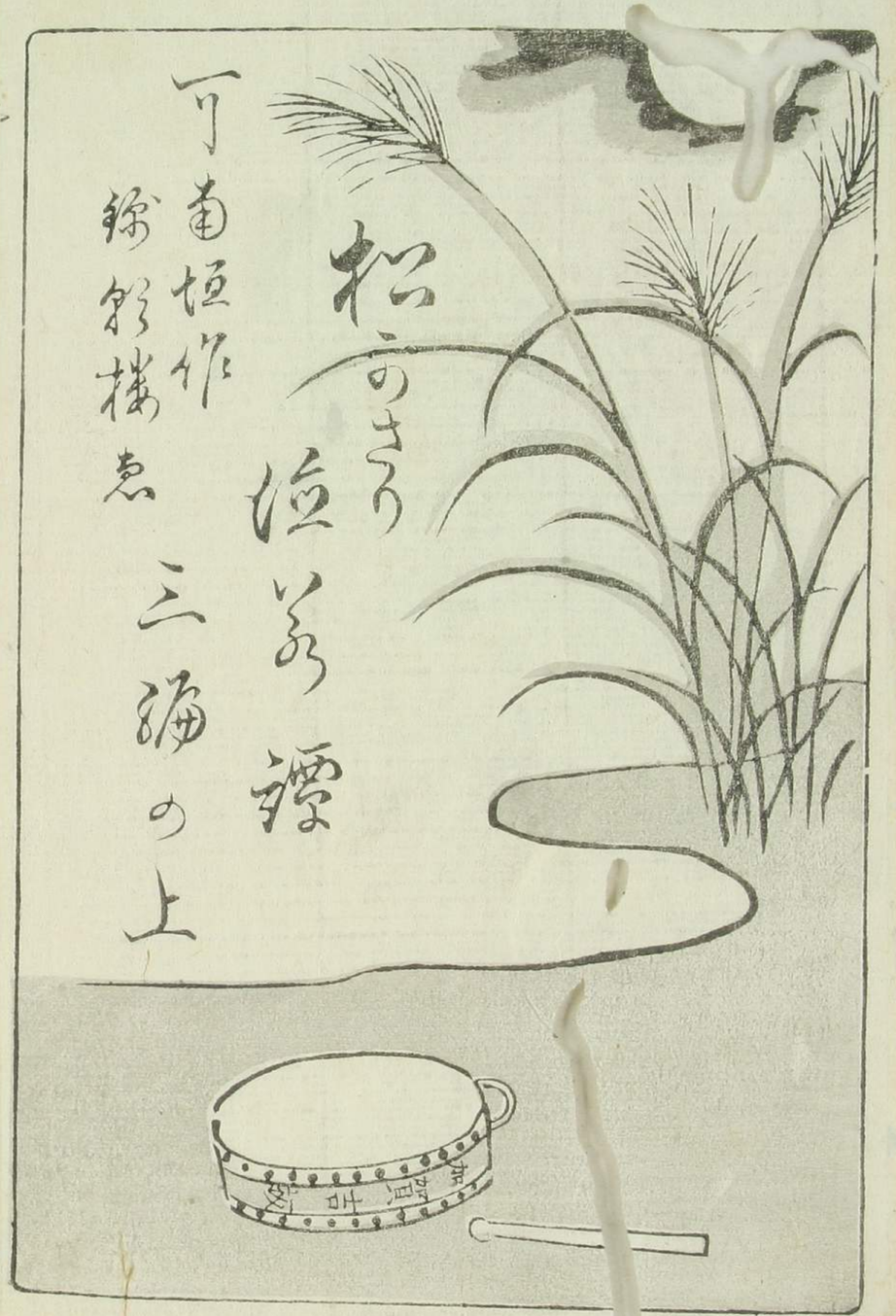
松飾德若譚

第三篇上下

へ逸14
2687
3

へ14 特
2687
3



曲亭主人が俳諧歳時記秋の部踊躍の條ゐ書言古事を引て訝鼓戯の説一つゝ彼王子醇が軍士ゐ教へて敵を破りし吏と惟つゝ當端繪ゐい相當と題目踊の漫に題し松飾りの称ゐ反きてるい所謂盆と正月を一度ゐまとめる踊の輪三編まハッく煙草ゐ休わぞ続いて四輯の懸踊り書見が音

頭の拍子ゐ乗て華と踊らせそえたるふし

未孟春

文月ゐ因む

假名ごの義しるべ

小田
信定
入道
月巖
旗下
安祥
城
主
柳田
掃磨
定教
文明十一己亥

七月十五日の
夜定教城下
西の原あそ
盆踊りと見物の
空居を
計りて泰
近の
嫡子
延満
不意
水城を
打坂主
定教を

討取安
延満
の手に
入しう
西三河を
威勢
を振へり
當家の
栄元此一戦
ゆ起まり
○寺田冠者
延満

柳田定教討死の図

次へ

大敵三州へ乱入之図

今川氏親

北條早雲

○寺田長親の嫡子
次郎三郎延忠
酒色ふ沈り

大者りを
極る之
図

魚文作

長近入道

芳虎画

清安

下巻

松飾徳若譚　五編　六編　七編　假名垣魯文作

今朝春三組盃　初編　二編　三編　孟齋芳虎画作

いろは節要　初編　十編　山々亭有人補綴　三遊亭円朝作話　錦朝楼芳虎画図

繪本太豐記　初編　二編　三編　歌川周重画

地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛板

徳若譚

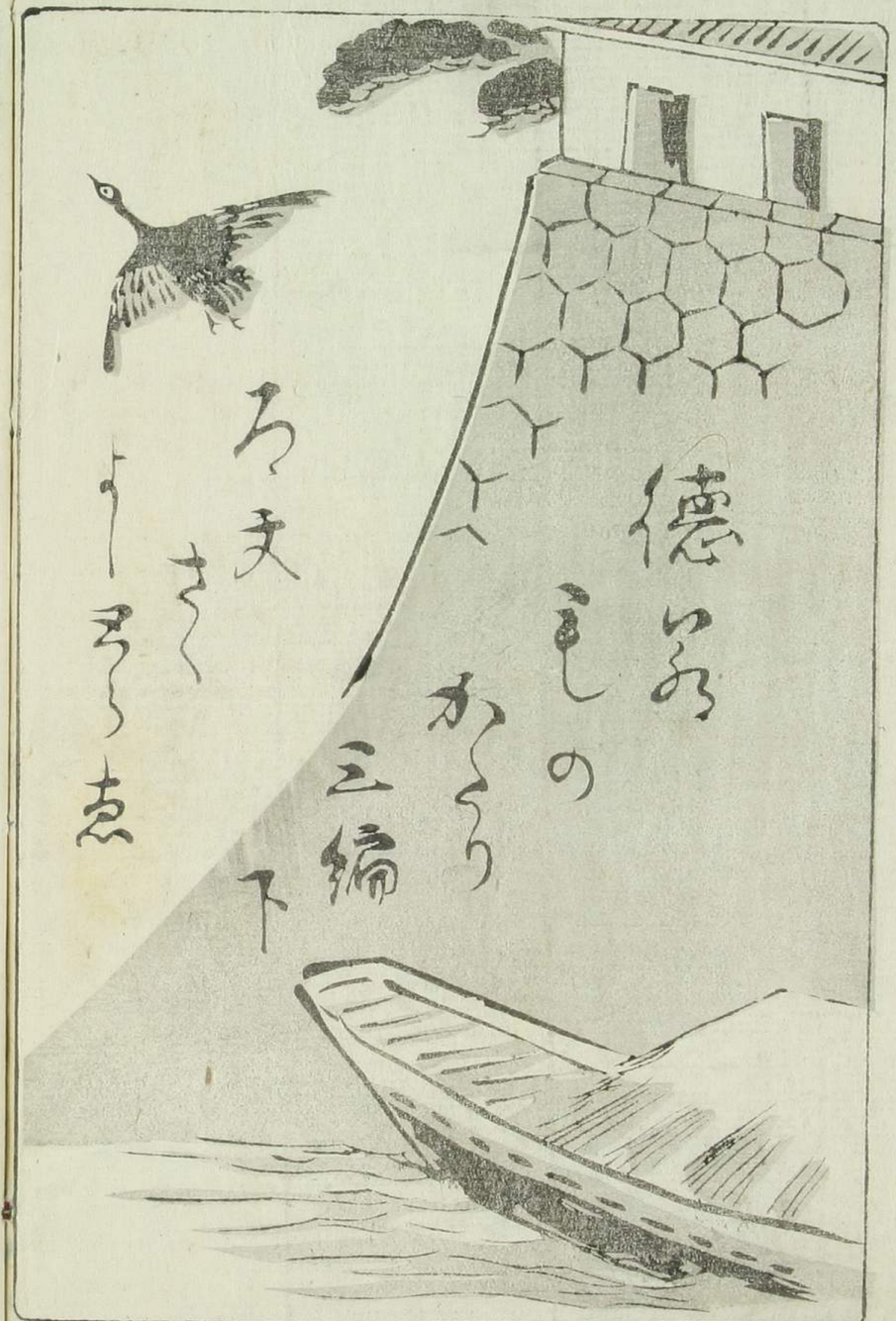
假名垣魯文作

錦朝　楼芳虎画

辛未春

青蓮文庫

三編下

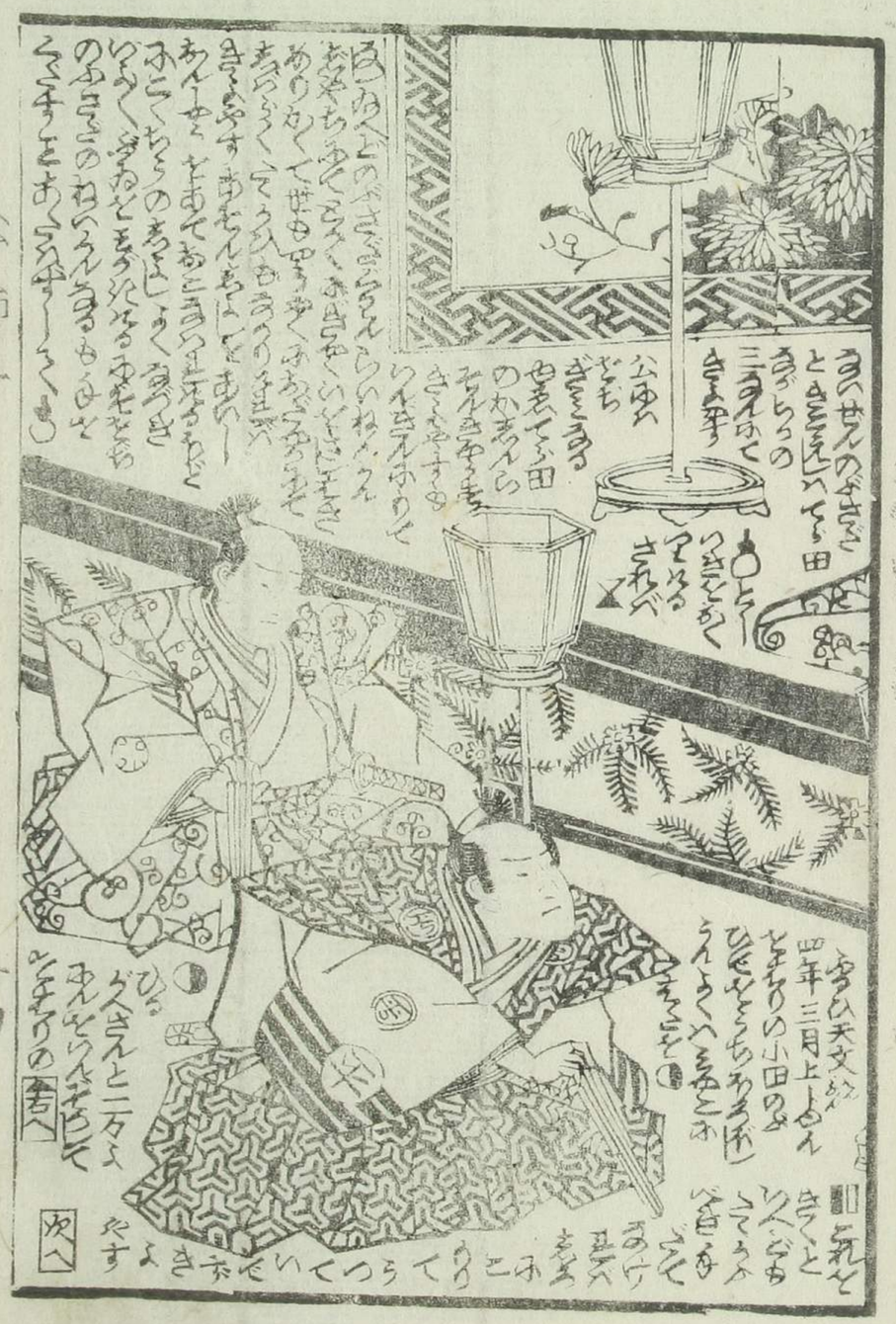

徳川家
康公
かくれ
さと
三編
下

三
上の巻ろ
清安
清安
清安

前

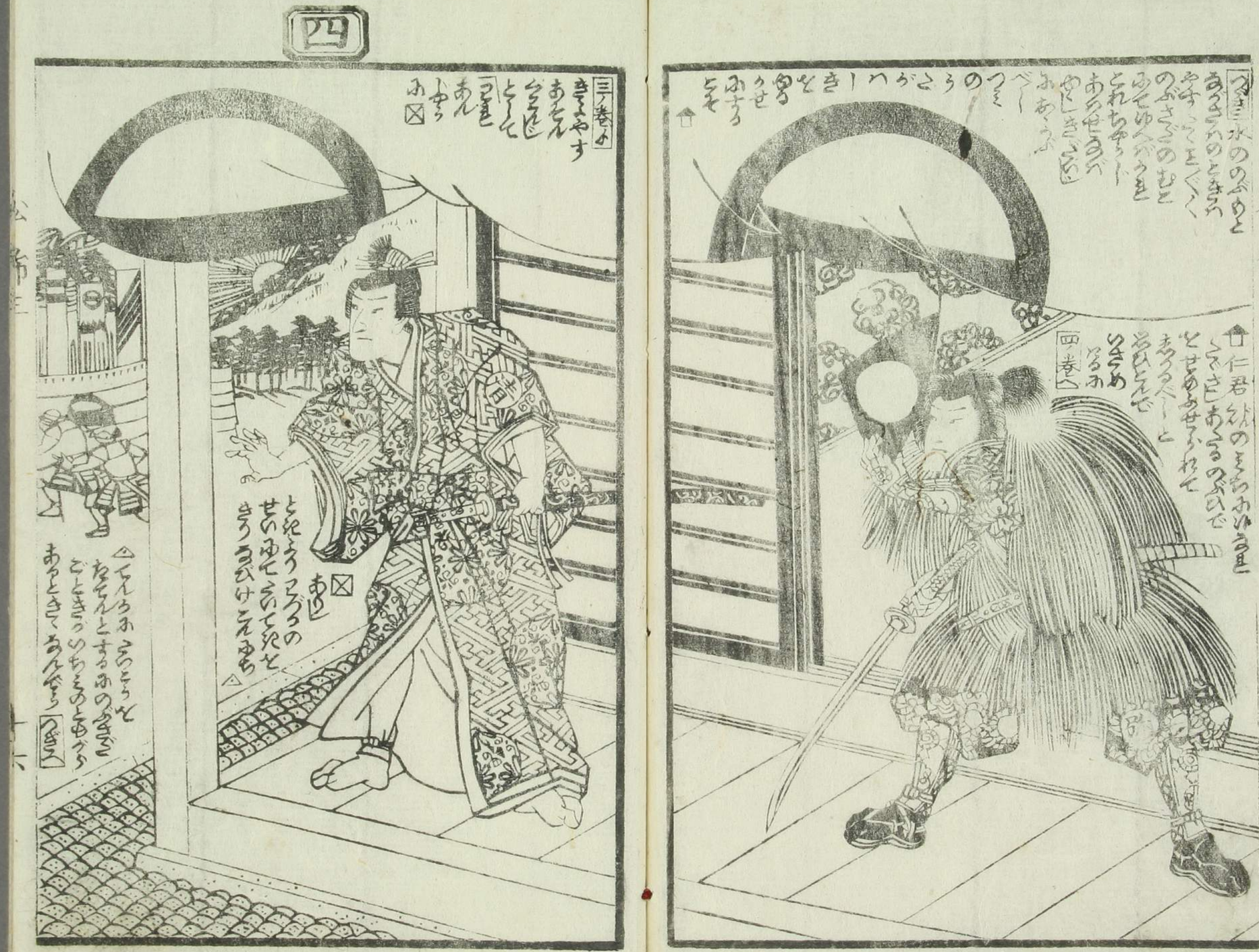
つぎ　つゐに山中にさまよひ
のあまりぐるしさにあけて
ひとりすがのとをきよやす
ちうれ　さそをつまろこえ
とぶとをぬけてつとを
寿チふのとをうらいつけ
のちうるとをひきき
ぞうぐちく女八

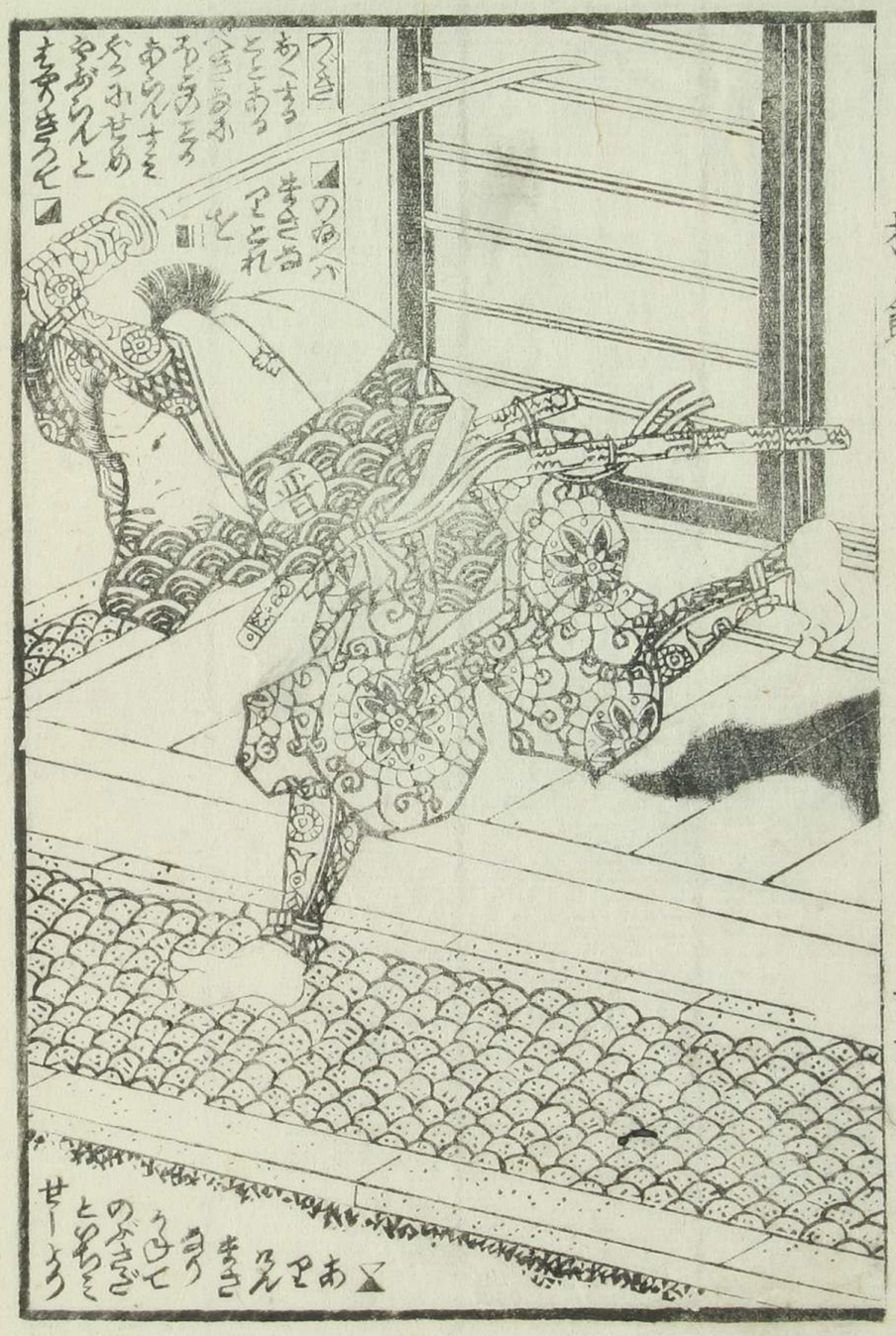
世ふうこれ見ぬ美女
ちこ　ゑんぐきやすこれ
とあるしぬひとのむかふ
あくせくらるちのあう
さろふ　つぎ



左ハ
正

弥
右ハ
次ハ





阿部四郎兵衛

新増補西國奇談　廿編　爲永春水作
薄緑娘白浪　廿一編　孟齋芳虎画
隅田川月と梅若　九編　假名垣魯文作
繪本太閤記　五編　柳亭種彦作
　　三編　孟齋芳虎画作
　　六編　山亭有人編次
　　孟齋芳虎画

地本問屋　西國廣小路　加賀屋吉兵衛板